

十勝岳

○地磁気全磁力変化

2008年の観測開始以降、62-2火口付近の深さ数百mを中心とする消磁傾向が継続している。この変化は62-2火口直下の蓄熱を示唆している。また、T0FおよびT0Eの変化傾向から考えると、大正火口噴気域のごく浅部でも消磁が進行している可能性がある。2012年7月の大正火口が明るく見える現象に同期した変化は見られなかった。なお、62-2火口の南壁付近の測量結果には、火口壁の崩落・浸食による局所的な磁場変化が相当量含まれているものと考えられる。

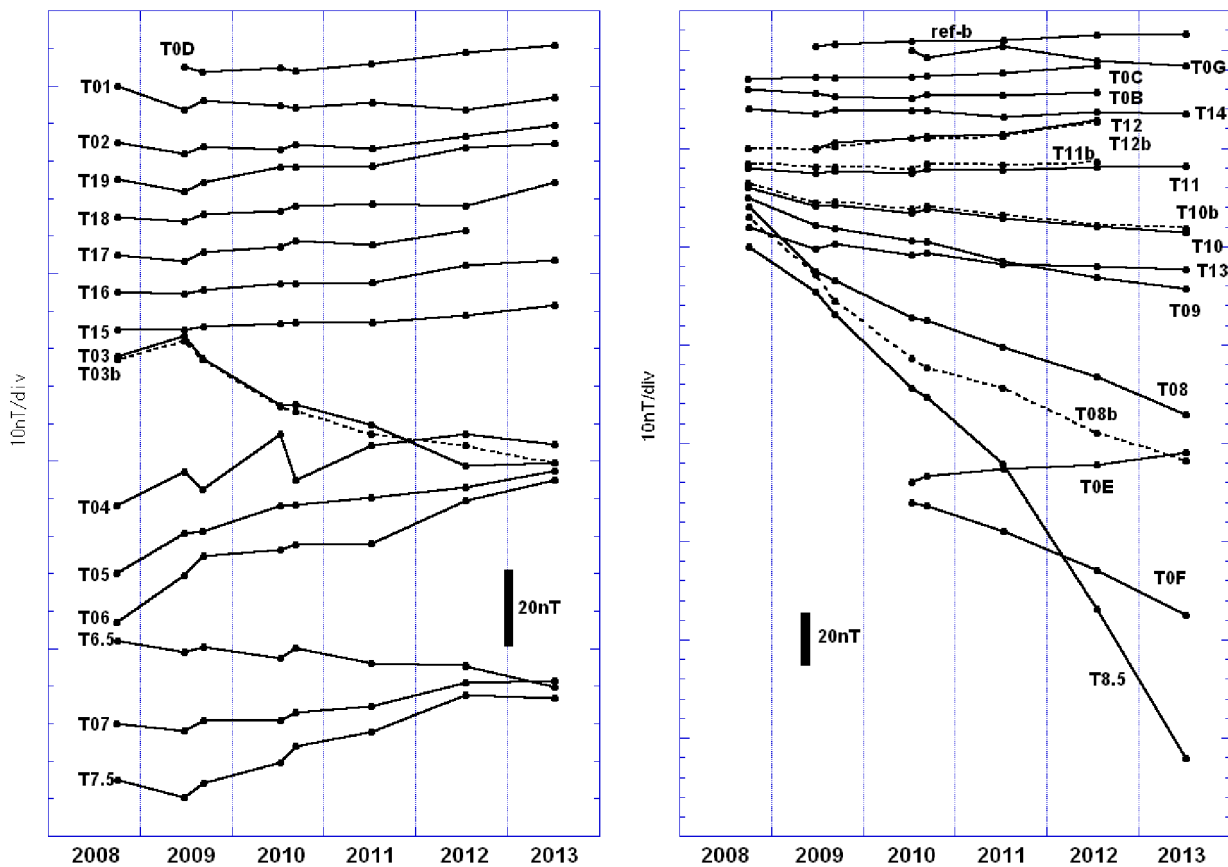


図1 繰り返し磁気測量に基づく十勝岳の全磁力変化（参照点REFとの単純差）。磁気点の分布は図2に示す。点線は補助点の変化を示す。最新の測量は2013年7月8～9日に実施。

十勝岳

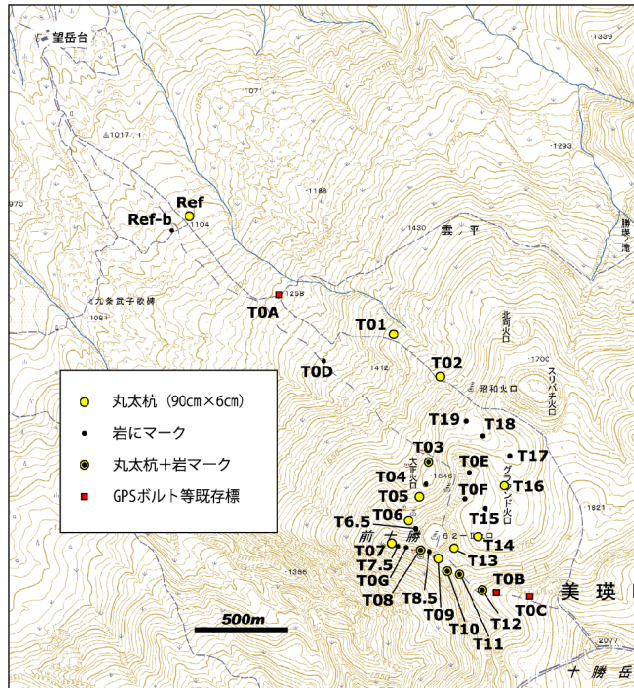


図2 繰り返し磁気点の分布. 本図の作成には国土地理院のオンライン地図画像を使用した.

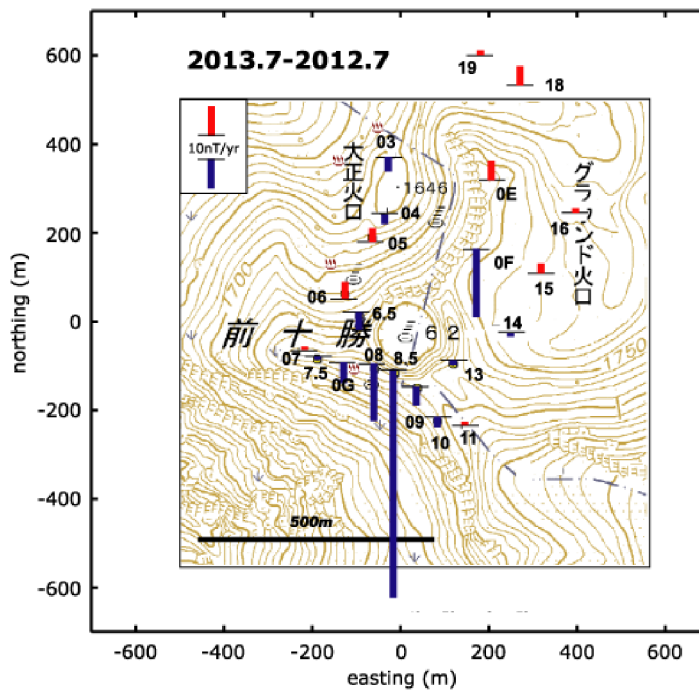


図3 2012年7月から2013年7月までの全磁力変化. 本図の作成には国土地理院のオンライン地図画像を使用した.